大阪市教組
2025. 6.11
号外
発行所　大阪市教職員組合　TEL（6942）3561㈹　FAX（6943）8039　発行人：三谷　和義

全国学テの「事前対策」は増加傾向、次年度のＣＢＴ方式実施に課題と不安あり。

各種テストを続けることに疑問の声が続出！人事評価への反映はあってはならない！

市教組は全国学力学習状況調査をはじめ、小学生すくすくウォッチや小学校学力経年調査、中学生チャレンジテストなど、多くのテストが実施されていることについて学校現場の状況を把握するため、この４年間、アンケート調査を実施しています。

小学校では「全国学テ」と「すくすく」が同時期に実施されることで、子どもたちにとっても教員にとっても、大きな負担となっています。また、今年度は中学校理科で一人一台端末を利用した CBT 方式の試行がありましたが、機器の準備の大変さや通信の不具合について多くの学校から意見があがりました。

市教組はこの調査結果を教育委員会に提示し、テストの精査について引き続き協議を行います。

なお、調査結果については以下のとおり。（　）は昨年度の割合です。

１．「全国学テ」の事前対策について

①　行った　　４４％（41）

ア 教員が必要と感じて　　３３％（34）
イ 校長の指示で（市教委の要請あり）　７％（3）
ウ 校長の指示で（市教委の要請は不明）４％（4）

実施時期（数値は「行った」内での割合）

ア 前年度３学期　　３２％（13）
イ 春休みの宿題として　８％（9）
ウ 今年度４月　　６０％（79）

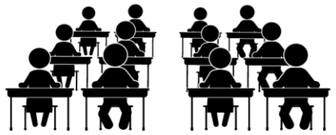
②　行わなかった　５６％（59）

ア 例年行っていない　　５４％（54）
イ 例年しているが、今回は行わなかった　２％（5）

・学テやすくすく等、４月のバタバタの時期に大変でした。
・若い方は得点を上げようという意識はある。
・時間を取られすぎる。過去問題の作成、実施、破棄とともにかく時間がかかる。
・現場への負担は大きいと感じる。事前対策も含めて、しんどいと感じる児童もいた。
・各テストを実施する理由、目標のための日々の取り組みというより、各テストの出題形式に合わせた取り組みになっている。
・ふだんの授業の成果としてテストがあればよいと思うが、学力テスト、すくすくウォッチ、経年テストの点を上げるために授業をしているのではないかと感じることがあります。

２．中学校理科の端末利用によるＣＢＴ方式について

ア 問題なく実施できた　　５２％
イ 問題や不具合があった　　４８％

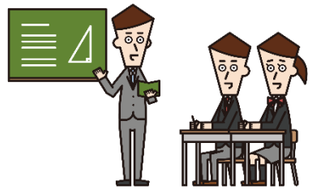


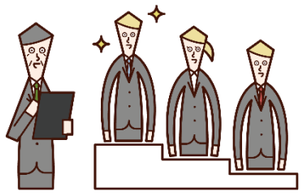
・タブレットＰＣの劣化により、処理できず交換し、何とかできた。257 名在籍→受検者 240 名中 4 名交換。時間が余って手持無沙汰な生徒が各クラス半数以上いた。検査には不適応と感じた。
・教務主任の先生が、やり方を読み込んだり、タブレットの準備をしたりで、長時間、準備に時間を取られていた。タブレットも充電が足りなかったり、突然バッテリーが切れたりとハラハラドキドキだった。
・通信が切れてやり直し。タブレット不足で他学年から借りないといけなかった。教員が操作を誤って再試験のボタンを押してしまった
・タブレットがうまく機能しないケースがあった。一斉に始めて一斉に終わらせることは不可能。成績に関わるようなシビアなテストなら実施は難しい。
・本校は１学年の生徒（約２００人）が一斉に端末を利用するとネット接続に不具合が生じる。試験当日は、試験問題漏洩を防止することと、ネット環境の負担軽減に配慮し、３クラスずつ入れ替わりで実施した。それでも不具合が生じて時間内に終わらなかった生徒がいた。
・タブレット充電ができておらず、学校中の延長コードを集めて充電させながら受検させた。本当に大変だった。
・準備期間が始業式を含め４日間しかなかった。端末の紛失や破損の有無、充電がなされているかの確認、windows のアップデートなど、試験を行うにあたって、準備を急いで行った。そのために多大な労力と時間外勤務に追われることになった。
・端末に不具合があった場合は予備機を利用することとされていたが、端末は生徒数分しか配備されていないので、放課後に居残りをして実施した生徒がいた。
・生徒に説明するためにパワポを作るなど手間がかかった。管理職がわかっていなかった。試しの操作ができないため、冊子のみで理解するのが難しかった。マニュアル冊子が職員数分なかった。

３「全国学テ」や「経年」、「すくすく」、「チャレンジ」の結果が、教員の評価に影響していると感じますか？

ア 感じない　　６７％（68）
イ 感じる　　３３％（29）
ウ 実際にリンクしている　　０％（1）

・経年の結果等、自己申告票にも使用しているため評価に使っていると考える。
・経年調査については人事考課の目標に入っていたり、運営に関する計画の指標に入っていたりするので、管理職とその達成如何について話をする場がある。
・学テは不明だが、経年の結果は関係しているように感じる。
・運営に関する計画や評価シートにも数値基準として使われることがあり、教育の理念と相容れなさを感じる。
・すくすく、学テは時期が早すぎて評価に書けない。経年は結果が遅すぎて再提出になる。
・実際どうなのかわからないが、そういう実態があるなら絶対おかしいと思う。
・良かったら褒められる場面があるので、良くなかったら…。
・年度ごとの児童の生活実態の落ち着き具合、学校の教育目標と取り組み方などが、教員の頑張りとしてリンクしているのか調べず、評価できない。
・学級編成も学力だけではできず、差があるのが現状なので、点数のみではないと感じているが…。
・成果が上がった場合には普段の授業力の向上がかかわっていることもあり、それについては評価してもらえていると感じている。
・教員の評価や学校運営の評価の際、単学級が多い学校のため、学年の評価（テストの正答率）は、担当してきた個人の指導力が問われやすい。精神的な負担が大きい。
・これについては全く感じることはない。





・不登校や家庭環境のしんどさ、支援の必要な児童の多い現状（1 クラス 40 人で 8 人が特別支援在籍）があり、その状況を管理職もよく把握しているので、直接影響はないと思います。
・目標管理シートの作成にあたり、その数値が達成水準となるため大きくかかわっている。
・教員の評価よりも、教員の心の余裕を奪っていることが大問題と考える。チャレンジテストにおいては範囲が決まっているので、生徒たちにゆとりをもって教えられない状況にある。また、日ごろのプリントやノート点検、小テストの頑張りが、たった一回のテストで成績に反映されずにいる実態があり、教員が真面目に実直にやればやるほど矛盾が起こっている。チャレンジテストを実施しているのは全国で唯一、大阪府だけである。
・結果がすべて子どものせい…と言っている教員は？？だが、授業がよく研究されていて、わかりやすい授業で結果が良くなるのは当然だと感じる時もあります。難しいですね。
・校長によって差があるのではないか。現在の本校の校長からは感じない。
・テスト結果が、人事評価に直接影響しているという印象はない。しかし、目標管理シートにこれらのテストの点数を用いて表記する仕組みがあるため、評価と無関係であるとは感じない。実際にテストの得点を意識した授業を行っている。また、授業時間中に過去問を実施したり、宿題にしたりといった露骨なテスト対策が行われている。チャレンジテストはテストの結果が評定平均を底上げする仕組みであるため、テスト結果が保護者からの学校の評判につながっている。
・評価にはあまり影響していないと思うが、これを評価の項目にしていくのはいかがなものかと思う。目先の学力のために子どもたちに様々なことを教えているわけではない。

【裏面に続く】

４．その他、全般的に各テストに際しての問題点や課題、ご意見等

【中学校】

・チャレンジテストで学校の成績を決めるのであれば、中間や期末テスト、実力テストもすべて大阪府が作成すればよいと考える。

・学校や地域によって授業の進み方が違うので、全国学テにあわせての授業が難しい。また、学力差も地域（学校）にあるので、行ってもよい結果になるのか疑問である。

・実力テストは他県では外部テストになっている。働き方改革として実施してほしい。

・年度初めであること、どこの学校でも修学旅行に向けての取り組みがあること等、一年の中でも多忙の折に実施することの意味が理解できない。また、３年生は教科の授業確保すら大変なのに全国学テのために授業できる時間が減るのも納得できない。

・ネットワークの不具合が出ないかどうかわからず、事前の準備やチェックにかなりの時間と労力を費やすことになり大変だった。

・失敗が許されないので精神的負担が大きい。

・チャレンジテストの結果を基に学校ごとの評定平均を決める方式では、生徒の評価が個人の成果ではなく、他人の成績によって左右される仕組みになっている。実際、チャレンジテスト前後で校内テストの成績が下がっているにもかかわらず、評定平均の影響で評定が上がるケースもある。本来、年度初めに定めた評価基準に従って評定し、評定平均の範囲から外れた場合のみ見直すはずだが、学校ごとの評定平均が判明した後に基準が調整され、上限いっぱいの評定が付けられる学校もある。

・チャレンジテストと高校入試の内容、傾向が違うように思う。統一してもよいのではないかと疑問に思う。

・毎年実施する必要はないと思う。他県は点数アップのためにいろんなことをしているというニュースがあった。テスト結果に一喜一憂するのではなく、しっかり一人ひとりの子どもに向き合いたい。

・オンラインを利用することで、その設定や読み込まなければならないマニュアルの量も膨大で、教員の負担があまりに大きい。問い合わせ窓口もたらい回しにされることが多く、実施するのであれば市教委が責任をもって、「大阪市版実施マニュアル」を作る必要を感じました。

・学力に課題のある学校ではチャレンジテストはかなり厳しい。点数を取らせるだけの授業をせざるを得ない。

【小学校】

・外国人の子どもが多数在籍しています。日本語を読めない外国人の子どもたちにアンケート・テストはできません。そこまでする必要はないと思います。

・テスト対策をすることにより、やるべき学習がストップする。学習が困難な児童にとっては苦痛。

・テストに関われない人も目標管理にはつながってくる。自分が努力してもそこにつながらないときがある。日本に来たばかりの外国籍の対応がとても大変。この子たちに同じテストをする意味があるのか？テストを受けてできずに落ち込む子たちがたくさんいる。

・テストの採点にお金をかけるなら、その場でわかるための人員を増やしてほしい。もらってその日に捨ててしまう保護者もいるので活用に疑問がある。（費用対効果）

・すくすくウォッチのテストをする意義が見いだせない。テストが多すぎてしんどい。文科省は他校、他府県と比べるものではないと言っていたはずなのに、かつての首長が「大阪は低い」とキレて「どうにかしろ！」とメディアであおっている状況。

・すくすくウォッチとか学テがしんどくて休んだり荒れたりする児童もいる。不要なことをしてもらいたくない。

・学校の児童の学力の苦手傾向がわかるのは、研修計画や方向性に生かせる利点はある。子どもが結果を自分の生活に落とし込むことができるのかについては疑問。

・準備が大変。返却時の個人情報管理が大変。前年度のすくすくウォッチとの関係もある。番号で照合するのが負担。私学へ送るのも、必要なところとないところがある。

・３年生から全市テストをし、結果が良くないと数値で表れ気持ちが前へ向かなくなる。これらのことが学校に登校しにくい、登校できないという子が増えている原因の一つと私は思います。スポーツテストでのＣやＥやＡとつく結果の通知も本当に問題だと考えています。

・すくすくはやめてほしい。

・子どもの実態にテストの内容があっていない。子どもを数値ではかっているのがよくない。子どもの個に応じた教育をしているにもかかわらず、親も子も点数で一律の基準ではかられ，自信をなくす姿を多々見るので残念である。

・順位を出す必要はない。児童の傾向を見ることはいいが、普段の学習でも十分理解できる。

・学力に課題のある児童が多い本校では、各テストにかける時間を基礎・基本の定着などに充てたい。また、欠席・遅刻の児童が後日テストを受けるために子どもによっては、何時間も通常の授業から抜けてしまうことも問題だと思う。これらのテストは必要ないと思う。昔の「しんだんテスト」のようなものとは違って、どこかが解けるというより、見るだけで意欲をなくす子もいるほど、読む力がないと取り組みにくく、わからないことを実感させるテストのように感じる。

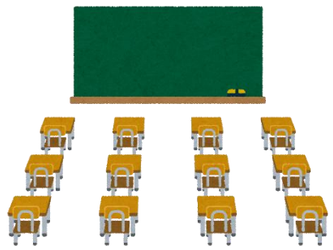
・できる子にとっては、このテストもいい経験になるかもしれません。でもその子たちは普段から塾に通っていて、いろんな形の出題に対応できる子だと思います。１日に２，３時間のテストを受けることにも慣れています。一方で、学習に課題のある子、支援の必要な子にとっては受ける時間のしんどさも、計り知れないと思います。

・質問紙の項目が教職員や児童に対し多すぎると感じた。

・テストが多いので、子どもたちの負担感を感じます。

・時間がかかり、学年の初めの大切なことができにくくなっている。学級経営にじっくり取り組みたい。

・各テストを実施する理由、目標のための日々の取り組みというより、各テストの出題形式に合わせた取り組みになってしまっている。



・現場への負担は大きいと感じる。事前対策も含めて、児童もしんどいと感じる子もいた。

・特別支援学級や学習に課題のある児童に対して、レッテルを貼るようなことにしかなっていない。

・テストばかり必要なのか。時間がもったいない。

・学テ、経年、すくすく、テストがあまりにも多すぎる。

・学テとすくすくを同時期に実施するのが大変。アンケートも負担。オンラインアンケートの確認が大変だった。

・外国人児童がたくさん増える中、一斉テストが困難。

・すくすくウォッチを実施するのが負担に感じる。

・本当に学習効果に役に立っているのか疑わしい。各都道府県に競わせようとしているようにしか思えない。

・本当に学力が測れるのか疑問です。

・別のところにお金をつかってほしい。

・児童アンケートの問いが多い。すくすくの必要性、実施時期について疑問。

・子どもたちの学力を上げることが私たち教員の責務であると考える。それは単に点数を取れるようにすることが目的なのではなく、子どもたちが目を輝かせながら「分かった」という姿を見たい。その結果、親にほめられたら自尊心も高まると思う。これらはあくまで個人内の成長であり、他人や他校と比較するものではないと思う。小学校でテストの平均点を学校ごとや都道府県ごとに公表するのは全くナンセンスである。あくまで個人のがんばりを評価してあげるために使うべき。

・ふだんの授業の成果としてテストがあればよいと思うが、学力テスト、すくすくウォッチ、体力テスト、経年テストの点を上げるために授業をしているのではないかと感じることがあります。

・全国学テ、経年調査も含めて、対策的に練習問題など（過去問）をすることに違和感を覚える。全国学テなどは長文で形式も違い、慣れない形にテストを受けようとする時点で読む気も失くしてしまう子どもも多いと感じる。日々の自分の学びの成長を感じられるものにもなっていないと思う。すくすく導入後の総合的読解力の学習も根拠をもとにした意見の記述や技術方法に特化していって、学習が苦手な子どもたちへの支援がだんだん難しくなってきている。

☆今、学校でしていることを当たり前ととらえず、立ち止まって考えてみる必要があると思います。現場の皆さんの声を大阪市教育委員会に届けていきます。